

令和3年度第3回鳥取県協働連携会議の概要について

- ・日 時 令和4年1月13日(木) 午前10時～11時15分
- ・場 所 第6会議室(本庁舎地階) ※WEB会議
- ・出席委員 委員11名中9名出席
事務局：県民参画協働課、職員支援課、他関係課

【議題】

- (1) 民間提案事業サポートデスクの対応状況について
- (2) 鳥取県協働連携ガイドライン(案)について

【会議の概要】

議題1 民間提案事業サポートデスクの対応状況について

民間提案サポートデスクで4月1日から12月28日までに対応した提案・相談案件(27件)のうち、提案者と担当課で検討し、結論が出た案件(実施中1件、実施不可1件、その他3件)について検証を行った。

(1) 実施中の案件(1件)

①山陰スバル株式会社が製作した「星取県」ラッピングカーを活用した県関連イベント等でのPR

<提案内容>

- ・スバルの新たな安全安心システム「STARLINK(スターリンク)」という名称が、鳥取県が推進する星取県との繋がりを連想させることから、星取県のPRを連携して行いたい。

<委員からの主な意見>

- ・山陰スバルのほかにも、星取県のPRに協力いただける民間事業者はいると思うので、この事例を発信し掘り起こしていただきたい。

(2) 実施不可の案件(1件)

①子育て応援パスポートの協賛店紹介アプリの実証実験

<提案内容>

- ・子育て応援パスポートの協賛店情報をスマートフォン等で簡単に閲覧できるアプリを開発中なので、鳥取県で連携して実証実験を行いたい。

(実施不可の理由)

- ・実証実験を行うことで協議を進めていたが、提案者のアプリの仕様変更等に伴うスケジュールの後ろ倒しにより、県が来年度から導入を計画している別の子育て情報発信アプリの運用開始前までに、十分な実証実験の期間が確保できなくなったことから、断念となった。

<委員からの主な意見>

- ・(今回提案のあったアプリの実証実験は実現できないとしても、)昨今、キャッシュレス、カードレス、印鑑レスが推進されており、県としてぜひアプリ化を早期実現してほしい。
- ・寄付などの情報などもアプリに掲載して欲しい。
⇒フードバンクなどを進めている担当課に御意見を伝える。

(3) その他の主な案件(一旦結論は出たが、引き続き検討する案件)(3件)

①情報・通信会社による手話パフォーマンス甲子園優勝校のインタビュー記事の配信

<提案内容>

- ・手話言語の普及や手話言語を通じた交流の推進、地域の活性化等を図ることを目的として、全国の高校生が手話言語を使った様々なパフォーマンスを繰り広げ、その表現力を競う「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の開催にあたり、県と連携を図りたい。

(実施不可の理由)

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、取材予定の学校とのスケジュール調整がつかず、記事の配信ができなくなった。今後、タイミングを見ながら連携できる方法を改めて検討する。

<委員からの主な意見>

- ・障がい者支援は県が積極的に取組を進めている分野であり、新型コロナウイルス感染症により断念したものについても工夫して、様々な形で支援・フォローをお願いしたい。

②県営住宅の活用や地域住民との連携による高齢者生活支援モデルの構築

<提案内容>

- ・モデル地区に子ども食堂を開設して、高齢者など多世代が集まり食事をしたり、学習支援を行う地域の拠点を設けたい。

(実施不可の理由)

- ・県が紹介した補助金に提案者が申請したが、不採択となった。他の補助事業の活用などについて、引き続き、検討する。

<委員からの主な意見>

- ・今後も補助事業やクラウドファンディング等の活用を検討し、良い方向に進むよう取り組んでほしい。

③ECサイトを活用した地域産品の情報発信、販路拡大

<提案内容>

- ・自社のECサイトをリニューアルし、地元の観光、食、文化の情報を複合的に発信し、鳥取のライフスタイルを提案するとともに、直接産品も購入できる仕組みを構築したい。

(実施不可の理由)

- ・県が紹介したECサイト構築に係る補助制度の活用について提案者が検討された結果、事業実施を見合わせ、引き続き検討することとなった。

<委員からの主な意見>

- ・常温の食品については、レシピの紹介を掲載するなど工夫すれば、売り上げにつながるのではないかと。

議題2 鳥取県協働連携ガイドライン(案)について

令和3年度中に策定予定の鳥取県協働連携ガイドライン(案)について説明を行った。

<ガイドラインの概要>

- ・民間と県が協働に対する認識・相互の役割や、協働連携の取組の標準的なルール・手順を共有するため、ガイドラインを策定する。
- ・本ガイドラインを、本県において協働連携を一層推進するための指針として位置づけ、協働の手法、事業提案の流れと留意点、取組の検証などを規定する。本県の協働連携の取組が継続的に発展するよう、ガイドライン自体をPDCAサイクルに基づき適宜見直しを行う。

<委員からの主な意見>

- ・ガイドラインの文章が硬いため、もっと分かりやすく、読んだ人が自分達も参加したいと思えるようなものを作ってほしい。
⇒一般の方々にも分かりやすいように、馴染みやすい事例の追加やイラストを挿入した概要版を作成することも検討したい。
- ・民間事業者からの提案を待つだけでなく、県からも色々な提案を出してほしい。例えば県が既に実施している事業の中で困っている部分があれば、出来るだけ具体的に示してもらうことにより、民間事業者側も手が上がりやすい。
⇒県の方でも自己点検を行い、民間の活力やノウハウを借りたい分野や施策、事業について、出来るだけ具体的な形で民間事業者に投げかけていく手法をとっていきたい。
- ・ガイドラインを作って終わりではなく、関係者の意見を聞きながら、みんなが使いやすいものに少しずつ改善して行ってほしい。
⇒必要に応じて、適宜ガイドラインの見直しを図っていききたい。